

一本化記念

こんな島にして欲しい

今までと同じでは、一本化は壱岐の衰退になる。
なぜならリストラだけの合理化では失業者を出すだけです、
一本化の神髄は地方の自立にあります。

頭脳とパワーを駆使してこそその価値が活かされます。
その為には意識改革こそが一本化を生かす術ではないでしょうか。

一本化で一番得をするのは私達の島です。
なぜなら島は国、いままで小さな島に四つの町がありました。
そのため真の発展が阻害されていました。
その島が一つの国となりました。
これからは美しい島国として生まれ変われます。
このような事を「NKK九州沖縄」の合併に付いての
感想文募集にフアックしました。
朗読中、司会者が口を開いたのはこの文だけです。
うなるように「うん・・・心強いご意見です」
皆様はどう思われますか。
世の中は変わりました。
このまま、今まで通りで良いのでしょうか。
いまこそ、新たに考える時ではないでしょうか。
壱岐はもっともっと良くなるはずです。

ページ案内			
	P		P
前編 壱岐の未来像は保養型リゾート		辰ノ島	23
序文	3	石田町・重点地区の役割	23
地域観光は壱岐の未来像	4	総合保養地域整備法と滞在型保養村	23
地域観光と観光業の区別	5	特別保養地整備法拡張願いの必要性	24
地域造りの基本	6	特別保養地整備法の資質	25
保養型リゾートを宣言しよう	7	滞在型観光保養地の概要	26
保養型リゾートの緊急事例	8	立地条件	26
保養型リゾートがもたらす効果	9	海の魅力	26
前編の結び	9	島内における交通アクセス	26
後編の挨拶	10	重点地区内道路と取り付道路	26
風変わった人生	11	海岸保養道路は最大の目玉	26
山と親友	12	重要地区の電柱の排除	27
もっと良くなるはず壱岐の島	13	マラソンコースの整備	27
鍋の中の蛙	14	防波堤の自然石による自然化	27
日本一幸せな合併	14	椿公園（四季の花）の建設	28
特例債はどのように使うべきか	15	近郊都市の福利厚生としての設備	28
一本化は知恵も力も四倍が理想	15	保養地と郡内医療との連携	28
海砂問題	16	タラソテラピー	28
航路問題	16	保養地域の店舗宿泊地区への出店	29
観光セクションの強化	17	各宿舎のコンドミニアム化	
観光を起爆剤に取り組んだ農漁業	18	農業との連携	
観光の流れ	19	漁業との連携	
ゴルフ場問題	19	特区と保養地	29
		特区と交通	
一本化後の観光協会	20	特別保養地整備法案	
郷ノ浦のあり方	21	大阪府の構造改革特区例	
芦辺の役割	21	お爺さんと観光	31
勝本の観光	22	タイムマシン	32
イルカ池	22	振り返っての人生	32
イルカ池と特例債	22	プロフィール	35

序文

壱岐一本化は人により、いろんな受け止め方があると思います。
人はそれぞれの人生を歩み、それぞれの考えがあるのは当然だと思います。
その事については思想の強要は出来ない事です。

しかし一本化は壱岐に於いては、これ以上無いとさえ言える革命的出来事であります。
そして大切な新しいスタートなのです。
良くも悪くもこのスタートの判断で壱岐の将来が決まるのです。

この事だけは私達はお互いに噛み締め合うべきではないでしょうか。
中にはこの変化に気が付かず、今までと同じ状態を継続する人が多ければ、
一本化の良さは無となり、逆に四倍になった力は取り返しのつかない大きな過ちをおかす
やもしれません。

大変ご無礼な言い方かもしれませんが私は外来種的思考方かも知れませんが、言い方によればよそ者としか思われず、異色な考えと阻害されてきました。

「郷に入れば郷に従え」は充分尊重します、しかし自分が実戦で知りえた知識はお役に
たてたい、こうすればこうなるとの経験を語るのも壱岐を思えばこそそのことです。
すくなくとも帰郷して私が訴えた通りに世の中が動いているのは事実ではないでしょうか。

それはただ外でたまたま多くの実戦と経験が出来た事を、説いただけなのです。
流行も思想も都会に遠のくほど遅れてくるのは当然の流れです。

観光の事は壱岐の方の理解度は対馬とは 20 年以上都会に近いようです。
対馬では今でも「観光はいらない」と言う人が多いようです。
それは 30 年前の壱岐と同じようです。

この事は壱岐の文化の優秀さを感じますが、それでも一般からみればまだまだ都会のレ
ベルには及ばない位置にあるのは事実なのです。

壱岐は第一産業が圧倒的に多く占めていますが、専業農家が存在できるほどのものでも
ありません。国の保護政策と地方交付金で守られて来た、お陰の豊かさであったのは自覚
するべきではないでしょうか。

国はねずみ講を犯罪と禁止しながらそれに等しい政策をとり、公共事業その他に湯水の
ようにばらまき、莫大な借財が残り、初めてそれに気がつきました。

ねずみ講の最後のババ抜きを国民に押し付けた結果に成りました。
もはやこれからは今までのように国は地方にただ振舞う事は無くなるでしょう。

従ってこれからは地方の自主財源を重視した改革が一番必要になるのは確実です。
しかしそれは徐々に移行して行きます。それが怖いのです、痛みが一度に来れば気が付き
ますが徐々に来ると、その恐さに気が付きません。

その第一歩が特例債の安易な使い方に現れています。
過去の過ちを繰り返すか、これからの新しい壱岐の為に有意義に使うかにかかって来ます。
しばらく地方交付金は減額があるとしても四町分の金額を配布されるようです。

その範囲内で出来る身支度をなすべきではないでしょうか。
特例債を身支度に使う事はなるべく避けるべきではないでしょうか。
自主財源の確保につながる事に使うべきではないでしょうか。

その事を達成する為には今までと違う意識改革が必要となります。

地域観光は壱岐の未来像

壱岐には今まで何千億と言う公共事業が行われました。

第一産業である農漁業に対しても手厚い指導がなされてきました。

しかしその割には、その効果が充分にあがったでしょうか。

一般的に考えれば成すべき事はなし尽し、限界に近いとさえ思われます。

これから地方分権の傾向が強くなりますが、今まで長い年月と莫大なお金を使いながら出来なかった事が、金も無くなる今日同じ事をして出来るはずがありません。

この事を正面から考えない限り、昔と同じ事です。

それどころか今度は国も甘やかすような保護政策は出来ないでしょう。

今まで出来なかった事を今までと同じやり方では、何も出来ないのではないのでしょうか。今までは総てが縦割りのため、縄張り派閥が存在しました。

良い意味での競い合いは別ですがほとんど見かけません、それでは力が分散します。

大きな力を得るには団結と統一以外に有りません。

人間の性を変える事は出来なくとも、団結する事ぐらい出来るはずです。

敵が攻めてきて内輪もめすれば、どうなるかぐらいは解るはずです。

今はその団結する時です。農業が、漁業がと縦割りにする時ではありません。

皆が団結した地域を構成する事で、壱岐に無限の力を生みだそうとの考えです。

団結と言えば地域を横につなぐ事、地域観光を軸にした壱岐の地域造りを提案します。

今まで観光を語れば語るほど、観光ばかりと非難された時もありました。

それはあまりにも小さな考えではないのでしょうか。

観光を営んでいるから観光の事を胸を張って言えるのです。

農漁業は農漁業の方が一番詳しく専門なのと同様です。

少し話がそれますが自己アピールが悪いように取られるようでは何の発展も有りません。裏を返せば企画も行動も無い事を尊ぶ事では、改革は出来ません。

このような考えを少しでもかえるのも意識改革として大切ではないのでしょうか。

観光を唱える人は今までの壱岐では論外とされたかも知れませんが、

観光は地域のセールスマンであり強壯剤、今の限界を打ち破る起爆剤です。

元々壱岐の観光は産業観光です、魚が美味しい、米が美味しいで成り立っているのです。

すなわち地域の良さが一番大切なのです。

地域とは農漁業、商工業、観光業そして美しい自然、すなわちそこに存在する総てです。

一例で言えば壱岐の魚も米も焼酎も観光客が購買者でその上宣伝までしてくれるのです。この事は何回も別記致しておりますのでこの辺に致しますが。

壱岐の資産価値があがる地域造り計画、これこそ今一番大切な基本と思います。

一本化の良さは四町では出来なかった、壱岐国の未来都市計画ではないのでしょうか。

それには夢のように思える企画で壱岐に光を呼びたいものです。

振り返ってみても今までにあれだけの事業を行いました、夢の持てるような取組は無かったような気がします。

それはどうしてでしょうか、人はそれぞれの考えと生き方があるでしょう。だからあれこれ意見がまとまらず、目先の夢の無い事を行って来たのかもしれませんが。しかし壱岐の将来に夢を抱かない人は一人も居ないはず。夢が描ければ希望が湧きあがり、必ずその夢に近づけるはず。

観光（地域観光）と観光業（宿泊業者等）を分ける事で明確になる

地域全体そのものが観光と言うのはお解り頂いたでしょうか。そこで述べました地域観光と観光業の区別の説明をしたいと思います。

昔は観光の事を民宿が、と表現される方が多かったと思います。その為観光と言えばサービスと真心がありさえすれば繁盛すると、観光業の話で終わってしまいます。勿論宿泊業者の話であれば一番基本的な話なので問題はありますが、その次元を超えた立場での観光論はほとんど行われていません、観光業者でさえ「行政に頼らず自分の事は自分でしよう」と胸を張られてきました。

その為に基本的な地域観光レベルの計画はなされていません。道を作るも港湾を作るにせよ地域観光を取り入れた事業などはなされていません。

それは壱岐が一本でない為に、視野が狭くならざるを得なかった結果です。今までいたところでなされた合併政策と特例債目当ての合併とは壱岐の場合違うのです。

壱岐の一本化は他の地域と比べれば日本一幸せな合併なのです。壱岐は合併して初めて計画性の有る国造りが出来る要素を備えているのです。そして他の地域は観光の資質にとぼしく、したくとも出来ない所もあるのです。

壱岐は観光の資質は恵まれています、これに季節さえ同じなら九州のハワイなのです。しかし近年の観光客のニーズは海外旅行、テレビ番組で見違えるほど高まりました。その現代のレベルから壱岐の観光は大変な遅れを取っているのです、昔のように「餌と人情では釣れない」と断言する旅行業者さえいます。

宿泊施設は 30%の稼働率が分岐点とされ、ほとんどの「旅の宿泊業者」は 70%以上を保たねば苦しいと言います、壱岐では分岐点の 30%に満ちません。

今のお客のニーズに合わせるには稼働率 30%未満では完全に不可能な顧客数です。稼働率 30%を越すまで手助けするのが離島振興法の真意でもあるはず。そこを越えれば各自の企業努力で成り立つ事業が自然と芽生えます。

今まで離島振興法はそのような真意には使われていません。特例債も今までと同じ様に使うならば同じあやまちを犯す事になります。壱岐を商いの出来るようになる基盤を造る努力が一番大切な事業ではないでしょうか。

観光客が 0 になる事はありません、何軒かの宿泊業には客が訪れるでしょう。しかしその何軒かもいずれは苦しくなるかも知れません。

このままでは衰退の一方です、世の中は厳しく流行に消え去る商売はいくらもあります。観光業もその一つと思われるなら、それは仕方がありません。流れてとして受け止めざるを得ません、しかし観光を生かすか殺すかで壱岐の未来が決ま

ると言っても言い過ぎではないはずです。

このままでは壱岐の後継者はどうなるのでしょうか。

壱岐の未来のため観光を起爆剤として地域を良くしようとする事は重要です。

「観光業レベル」を超えた観光、すなわち「地域観光」と素直に向かい合う時です。

一本化には夢を与えるかどうかで壱岐の明暗が決まります。

夢を島民に与えるような一本化こそが本物の一本化のはずです。

地域造りの基本

地域観光 (産業との連携による相乗効果)

観光業	商工業	漁業	農業
行政への企画提供 時代に合った設備 保養の為の地域造り コンドミニウムによる分業 総ての産業発展による地域全体が 目玉となる。	総ての産業の発展による進化 滞在型観光での交流人口の充実	食の安然を目指す事業 近海を畑と考えた事業 滞在型観光での交流人口の 充実による地産地消	食の安全を目指す事業 畜産を軸に有機農業の指定を受ける 滞在型観光での交流人口の 充実による地産地消

このように農漁業、商工業、観光業の連携した発展こそが地域の発展です。

また総合地域観光との相乗効果こそ、これからの力であり、ささえではないでしょうか。観光による交流人口が増え、各々の産業が栄えるのです。

あえて総合地域観光と観光業の違いを述べたいのはそのためなのです。

観光と言えば民宿・宿泊業と決め込まれるのを避けたい為です。

行政は行政の考える観光、農漁業その他もそれなりの考えをして欲しいからです。

もちろん「観光業」もこの大きな意味の観光を一番考えねばなりません。

いままではそれが無い為に壱岐を生かされなかったのです。

「これからの明るい希望もてる皆の目標」を「総合地域観光」を軸にして、総ての産業を横につなげば、今までに出来なかった事も見えてくるはずです。

この事で総ての産業に少しでも明るい希望と夢を与えたいと思います。

行政も同じです、壱岐住民のためと言いながら官僚主義で、縦割であるのが不思議です。

いままで縦割り政治のため横の関連がなくどれだけ効率を妨げた事でしょうか。

縦割りでは壱岐全体の未来像は出来ません。

行政も総括部を設け情動的にも横の関連をつなげるべきです。

すでに壱岐市では実行されているかも知れませんが、支庁における一例ですが防災課は直ぐ防風林を植えようとします。しかし振興課のコンサルタント依頼の報告書ではそこはビーチの重要性を唱えた場所もあります。

その場所に突然土を盛り、松を植え、ビーチにつながる進入道路さえありません。以前一千万円もかけた振興課の企画書は農林課の誰一人として存在を知らなかったのです。

その上振興課の者さえ忘れさり、引き出しにしまわれたままでした。道路も掘ったり埋めたりは計画性がないか、横のつながりがないからです。

総て「壱岐のため」変な縄張りはおこさず、絶えず協力しあうべきではないでしょうか。このような事も大きな未来構想がないために起こるのではないのでしょうか。

保養型リゾートを宣言しよう

これからは少々の陳情をしても国は受け付けてくれないでしょう。その上、多くの大型イベント型のリゾートは失敗に終わりました。

壱岐でも本来なら、すでに観光整備は十二分に終了し、活用に悩む時なのです。しかし不幸にもそれはありません、ある意味では喜んでよいかも知れません。

もししていれば施主無き工事で、無意味なものが出来あがっていたかも知れません。失敗を恐れてはいけませんが成り行き任せの計画が一番無謀です。

工事とは施主がいて初めて進行するのです。人任せコンサルタント任せでは血のかような物は出来ません。

このような物を作りたいと施主がいてはじめてそれらのコンサルタントが生きるのです。旧総務大臣は「こうしたいからこうしてくれと国を説得せよ」と述べられました。しかし今の時代においそれと、そのような具体案は浮かばないでしょう。

これまで多くの失敗例ばかりです。しかしそれらは元々おかしかったのです。そのおかしな所を反省し、参考とすればこれから大変役に立ちます。

その失敗を繰り返さぬ事です、それによりリスクを少なくする手段も浮かびます。それを踏まえた上での計画で保養型リゾートを提案いたします。

今までのリゾート法とは違う地域型のリゾート法です。

壱岐の地域造りとして国民の健康を請合う癒し有る保養地宣言する事です。

地域型保養地は今までのような企業型イベントと違いリスクは有りません。地域型は少しずつ進化し、自然発生の要素をたどるからです。宣言して総合保養地域整備法の心に訴え、国にこうしますからこうしてくれと訴えるのです。

総合保養地域整備法の法令の個所を読んでみて下さい。これがシーガイヤーやハウステンボスに当てはまるか不思議に感じます。

「地域型リゾート」にそのまま適応すれば、今は素晴らしい島に成っていたはずで、国は憲法でもうたわれた、「国民の健康を保証しなければいけない義務」があります。国としてはリゾート法が失敗に終わってもそれに類した心は存在するはずで、

それには裏付けを取った計画案が必要とはなりますが、これこそ施主の行為です。コンサルタントとか他人任せと違い、施主が指示して血が通う物が出来るのです。

地域全体の都市計画と言う国造りです。具体的構想を示せと箱物付きを要求する反省のない方々がありますが、膨大すぎて箱物などは場所と方向は示しても簡単には出来ません。

都市計画では総ての箱物を一気に出来ません、自然にリスクの少ない時に実行していく仕組みです。全体的未来像は総て示しておいて、後継者、帰郷者、希望者が植えたい時に植える事が出来る畑を前もって造るのが都市計画です。

しかし呼水役として「緊急になすべき事」はあります。波及効果を考えての将来投資です。

国造りは市が中心でなければなりません、市のなすのは監督部門を受け持つ事です、その他は「責任とリスクを覚悟する意欲有る民」の発生次第です。その指導と援助は官がしなければならぬと総合保養地域整備法では義務付けられていました。

そのような地域造りはまるで夢といわれるかも知れませんが、夢だから素晴らしいのです。しかし確実なリスクの少ない未来に通じ光を感じる夢です。

保養型リゾートの緊急事例

地域を保養型リゾート化すると言えば今まで誰しもが具体的案を出せと問われます。広大すぎてここに記す程度の概案しか述べられません、ましてその裏付けを調査した計画案を作成するには民間の個人では不可能です。

国の省庁にも出向かねばなりません、調査でいろんな依頼をしなければ成りません。行政の同体的協力が必要です。ゆえにこうして訴えて来ました。

むしろ地域造りは行政の仕事で、それに私達が協力する体制が正常なのです。今まではいくら訴えても「観光業レベル」の答えしか返りません、うまいものと真心があれば良いとかまず自分達の事は自分達で努力せよ等の返答しか返ってきません。

一本化になれば智慧も力も四倍になる事を信じて止みません。付け焼き計画では地域造りの妨げとなるし、その小さな一つを述べる事で誤解を招く事になるので具体案の返答は安易に言えませんでした。

その辺を理解して頂けると信じ、実行一步目の具体的案を記させていただきます。

- 1、 保養型リゾート具体的計画案の組織作り。
- 2、 原点に戻り夏季観光整備の充実 以上を現況の最緊急事態と考えます。

緊急事態として原点の夏場に戻った夏季観光整備の必要性です。

「夏は黙っても客は来る」誰もがそお思ってきました。

その結果夏季の観光対策はおろそかになりました。

まして自然と言っても壱岐は何処に行っても家が見える程度の自然です。その少ない自然さえ無用の公共事業の犠牲になってしまいました。私達は大きな過ちを犯した訳です。しかし今ならそれを取り戻すには遅すぎるとは思いません。

「夏は海に行きたい」これは勤勉に働き観光など考えない時代からの日本国民の慣例になっている大きなイベントなのです。こんな素晴らしい、有り難い慣例はありません。

海では島が一番です、壱岐はその島だから素晴らしいのです。

何でも出来るスケールの企業イベントでも島を造る事は出来ません。

島を生かした夏季対策こそが地域観光の目玉であり火種と成ることは明らかです。

それも地域作りの全体像にあわせた物でなければいけません。

地域造りは一番手近でリスクのない夏季型の保養地整備を初段階に行うべきです。

具体的に可能な限り記していますが、案には必ずしも 100%の同意は有りえません。しかし誰かが賛成し先駆者を示さねばこれからも何も前向きには進まないでしょう。

皆が賛成すればと逃げないで下さい、貴方自身の勇気有る意思表示が世を変えるのです。それが無い為に、国造り案が実現出来ない事を一番恐れています。

これに取組めば壱岐の客離れの防止となり、20%以上の集客増につながると考えます。ぜひこの事に対しての具体的行動と協力を望みます。

保養型リゾートがもたらす効果

まずこの保養地は地域産業が良くならねば成功しません。またこうとも言えます。

「保養型リゾート島が成功すれば総ての産業も良くなる。」とも言えます。

保養型リゾートは近郊都市の福利厚生と連携できれば必ず成功するでしょう。

それには地域作りと平行して徐々にしか進まないかも知れませんがやがてコンドミニアムの方向に進むでしょう。そして観光と違い訪れる回数と滞在期間が増えるでしょう。

次に通勤圏内料金の可能性が生じます。

離島振興法がうたう内地との格差は交通の不便さが一番の原因です。

島内からの通勤可能はいろんな可能性がでてきます。若者が取組める仕事のチャンスが生じます。島からの通勤、逆に都会からの人材の流入数えればきりが無い位です。

その他の波及効果は今では考えられないレベルとなります。

低料金の市民ゴルフ場の実現も可能となり保養契約の客誘致に大きく役立つでしょう。

低料金プレーは大きなインパクトとなります。

貴方はこれらの事を夢みたいな事を言うなど笑いとばしますか。

目標は夢のようでこそ楽しく向かえるのではないのでしょうか。

国造りは夢なしでは出来ません。夢なしでは何も出来ないのではないのでしょうか。

終わりに

述べたい事は沢山ありますがここでは一本化の始まりに対する思いを綴りました。

意識改革に総てのキーが有ります。

そして一本化は未来像を造る事が出来るのが一番の良さであり、それ無では始まりません。

外から見る目線と内だけで見る目線では当然違います。

外から見た目線を伝えようとすることが批判の行為にとられるのが一番残念です。

30年間外で学び生活したせい、また熱意ある故に「郷に入れば郷に従え」の言葉にも反してしまいました。

しかしそれが私の短所であり長所と思いながら強がっても、寂しいものです。

有る意味では私は欠点ばかりです、しかし良いところは認めて頂きたいものです。

わたしの良さはあきらめない事、何事にも「なぜどうして」と、

しぶとくあきらめない事ぐらいです。

ご拝読、有り難う御座いました。 田口 靖人

これから以下に記す事は、私の思いとここまで書いた事を少し詳しく書いて見ました。
なぜこのような熱さがあるのか、35年訴え続けたことの思いを綴りました。

無意味な人生と悔みたくなく、なれない筆をとりました。
重複するものもありますが、私の人生を掛け、なしとげきれない事を記しております。
何時かどなたか参考にして頂けたら幸いとのお思いであり
遺言的最後の私の証しかもしれません。

ご挨拶

私がこの書を書くにあたりまして皆様には釈迦に説法と成りかねないかも知れません。
元々国語より英語が好きで文筆など経験が有りません。

前もって文中表現不足とか未熟な処はここで前以てお詫びさせていただきます。
何時の間にか生れて65年経ちました。 壱岐の漁船が伝馬船主流で動力船も発動機船八馬
力と言えは珍しく眺め、汽船に於いてはあがた丸とか対州丸800トン、船室に入るだけ
で船酔いしそうな時代から壱岐の歴史の重さを体験し、及ばずとも人生を通して壱岐の
歴史と付き合っまいりました。

私は少し違った人生を送っまいりましたせいか、皆様とは違った観点から壱岐をながめ
る事が出来ました。 その違いを役立たせようと努力しましたが、結果的にかなり風習の
違いでご理解どころかおしかりを受けるような状態が多くありました。

そのはずです場所をかまわず楽しい酒の場でも酒場は俺達の情報交換場所で、議論の場だ
と主張し、一度ならともかく度々重ねると当然の事です。

「そんな事は議員に成って議会で言え」とまで言われるほど庶民議会を開いております。
こうして帰郷して35年経ちました、今でも押さえはしていますが治りません、私から見れ
ば筋違いの事ばかりが起こるからです。 その結果でしょうか「貴方の議論は素晴らしい
間違っていないが人の話を聞かない」とお叱りを受けるばかり、しかたなく「おい田口
靖人良くやったお前がやらずして誰がやる」と自分自身を自分で心中にてほめて、今だ語
り続けております。 朝寝坊の人が早起きだと嘘を言い、一年早起きを続ければその人は
もう朝寝坊でなく早起きだそうです。私の理論は35年経ち今も同じように論じ訴えます。
その事を何時かお役に立てばと思ひこの書を書かして頂きました。

書中不明瞭でご理解できない部分をご遠慮なく連絡下されば、
調査致し、お答えしたいと思っております。

壱岐市石田町筒城仲触 1786

Tel 0920-44-5818 fax 0920-44-5686

風変わりな人生

私の風変わりな人生の始まりは父が職業軍人で有った為、終戦で父の人生が変わり、当然長男の私の人生も変わった事で始まりました。

父も敗戦の屈辱を噛み締めていましたがすでに過ぎ去りし過去です。私は敗戦による人生の変化、その時から始まりでした。

幼いながらもそのショックで戸惑いと屈辱が無意識に潜在したようです。今思えばこの時フロンティア精神が生れたと言えば格好良すぎますが、意地が芽生えたような気がしております。幼少の時はそのエネルギーを山登りに使い、大学に通う頃には敗戦の悔しさか進駐軍にお兄さんと呼ばせ、彼らと付き合い学びました。

人生とにかくがむしゃらに突き進みました。あらゆる世の中の矛盾に立向う性格が芽生えたのもこの頃でしょう。

その事は良いか悪いかは解りませんが、世の中に矛盾したとか、弱い者いじめをするものには例え法律でもザル法として戦ってきました。

同じ同志の思いの一端を担い、幾つもの条例を変えたりもしました。学生時代にスタンドバーを手がけましたが、ある時「夜の 12 時過ぎはお酒を飲むな」の法律が出来ました。世の中は「お天道様が登り起き、沈んで寝る」時代ではありません。

人の寝ている間に働かねばいけない人も存在するのです。そのような事も解らない人が法を決めていると思えば腹立ちます。その結果「スナック」の名前を世に誕生させました。

それは進駐軍の友達から学び、大学は法学部で有った環境の賜物と思います。一時学業はともかく、仕事は順風が吹き人も集まり、店も三軒目を持つようになりました。大企業の社長とも挨拶出来るようになり、彼らの話しとかを聞くうちに「上には上が居る」のを思い知らされました。一生掛けてそこまで到達出来るかと言う人達の出会いです。

その人たちが住む屋敷さえ、一生掛けて出来る物やらと困惑しました。そのような時期に「大義名分」を唱える人と出合いました。人生は金儲けだけではないと思うようになり、店を整理し水商売の頂点観光産業に挑戦しました。キャンプ村からヨットハーバーと立向いましたが、この頃が一番燃え又一番苦勞を味わいました。

観光産業のとてつもない大きさに感嘆させられ、個人で立向うには限界を感じました。そこに出くわしたのが「地中海クラブ」と言っ、ヨーロッパで会員により何も無い所に一ヶ月くらい滞在できる村を造る組織です。

そのような「地域を造る」これこそ私の道であり、大義名分と感銘足しました。我が故郷壱岐こそがそれをなすのに最適であると思ったのが始まりです。

天が与えた人生最後の目標と帰郷致しました。その時 30 歳でした。それから今日まで、壱岐がよくなる事の為には持ち前の精神で、やろうとした事、訴え続けて来た事を、私の壱岐への思いを込めて書いております。

山と親友

私は幼い頃から自然が好きで、その為か山登りにのめり込みました。当時は登山と言えば変人と言われるほどの時代でした。

一番初めに登ったのが福岡の宝満山 803 m、中学生ではかなりの無理なコースでした。その時はもう二度と登らないと思わされるほどきつい登山でしたが、一月も経つと又挑んでいるのには自分自身も不思議な事でした。それが高校に入ってから益々山に引かれ、登山のきつさがむしろ楽しめるように成っていました。友人と言えば当然親友は同じような考えの登山家でした。その親友と最近四十年振りに再会し、彼の家に出向きましたが奥さんが「田口さんとは初めて会った気がしない、何時も主人はあなたの話ばかりしていましたよ」と迎えてくれました。

私が大濠高校時代に自動車会社社長の息子でボンボンの彼を山岳部に誘いそれ以来二人で山登りはもちろん家族ぐるみの付き合いをしていました。そのボンボンが「私との出会いでたくましい人生を送れた」と何時も家族に話していたそうです。

私は逆に彼の素直で豊かな家庭で育つ姿を見て、自分と照らし合わせその差がバネになり、福岡大学時代からスタンドバーを開業し、三井、住友財閥に負けないとうそぶき、今考えると「めくら蛇に怖じず」世間知らずも良い所ですが、とにかく燃えまくりました。

そのボンボンの彼が今はたこ焼き「八ちゃん堂」を立ち上げ、ベンチャー企業講座の教訓談話をするくらいにたくましい男に成っているのに驚かされました。

自動車会社の跡継ぎで、その勉強をさせられたらしいのですが、突然たこ焼き屋に成ると言い出して親を驚かせたそうです。

「たこ焼きはファーストフードでありチェーン店化出来る」との発想を持ったそうです。初めはたこ焼き屋台の横で寝袋にくるまり頑張ったと話を聞きました。

この「やり出したらとことんやる行動力と粘り」こそが山男の神髄でしょう。そのように当時屋台で売るたこ焼きが、企業化出来るとは誰が思ったでしょう。

感心して「川辺君私との出会いと言うが、あなたは山を通して自分を磨いたお陰ですよ」と即座に言えたのは、論理的に私同様山登りの精神丸出しと感じたからです。

私の登る山は人生の夢と変化しましたが、彼は今でも山を忘れない人生のようです。登山はまずどこに登るかの目的が要ります。次にどの様に登るかの方法手段が必要です、次に情報を集めねば成りません。栄養カロリーを考えた食事の献立いわゆる自己管理をしなければ成りません。一番重要なのは自分自身で登らねば成りません。

途中苦しくとも山頂を極めねば目的をかなえた事には成りません。時には命がけの行動が伴います。「ネバーギブアップ」同じ論法を唱える彼を見て、何時か「登山は修行」とある宗教家が言ったのがうなずける気がしました。

他のスポーツも共通点があるでしょうが、理論ばかりでは何の目的も達する事が出来ないのが登山です。彼は現在素晴らしい山を選び山の教えと経験で山頂にたどり着いた訳です、次はもっと高い山を目指す事でしょう。

それに比べ私はとんでもない未登の山に挑戦したものと驚異を感じます。地域のためにする事だから簡単に受け入れ感謝されると思った、+αの観光が、全く通

用せず今だ登山許可さえもらえぬ状態です。

それでも自分自身を自分で慰め「ネバーギブアップ」。私の登山許可は何時もらえるのだろ。

許可が下りたなら「壱岐を素晴らしい観光の島にする」それが私の登る山頂でありま壱岐観光保養村を登山魂でどんなことをしても見極めたい。

その時こそが私の夢が叶い、残りの方が少ない人生を誇りで閉じることが出来るでしょう。その気持ちがこうした書を残すことでせめてもの節目としたのかも知れません。

もっと良くなるはず壱岐の島

壱岐は皆さんがご存知のように昔より大陸との交通の通過点として重要な役割を担った、歴史ある島であります。

その為その恩恵で他の島に無い多くの歴史と文化に恵まれました。

農業が盛んで自給できるほどの島はほとんど有りません。美しい海に囲まれ白い砂浜にも恵まれ離島と言え内地と一時間で行き来できるのです。

空気の大切さは身近すぎると忘れがちです。壱岐の良さも似たような物かもしれません。島のハンディーと言いますがそのハンディーさえも利用できる恵まれた島なのです。

その島が発展どころか砂は取る、無駄な防波堤を作り、自然を無くし人口は減少。皆様はどう思われますか、何千億の大金を注ぎ込み、何故発展しないのでしょうか。皆様と一緒に考えて見たいと思います。

「指導者が悪い」と言われる方はどれくらいいらっしゃるでしょうか？

このご意見を言える勇気がおありなら、これからの壱岐は大丈夫です。

なぜならその通りです、全部ではないが四町で有った為の政策の誤りです。

しかしそれを選ばれたのは皆様でも有ります。その責任も感じての発言と思うからです。選ばれた指導者は皆さんがそのような方法に賛同と思われ、なされているのです。

選挙とはその人の持つマニフェクトを選んだ事になるのです。

「世の中が全体的に不景気で仕方が無い」こう思われる方が多いと大いに心配です。

何時までも他力本願で温度差の解らぬ人には痛くも痒くも無く、首をつるまで解らないでしょう。このような地方が増えると大変です、やがて国の滅亡をも迎えるでしょう。

「おれは困っていない自分自身がしっかりすれば良い」

と思う人はどうでしょう、一見心強い頼れる人のように思えます。

しかし自分がババ抜きゲームのババを引く時が来るのを予知できないのです。

どうして壱岐が良くならず自分だけが良くなるでしょう。このような方が多いと人を蹴落としても自分だけはと利己主義になり、平和な壱岐に相応しくないでしょう。

その他いろんな意見をお持ちの方がいらっしゃるかも知れませんが今の状態で言うなら、改革の原点まずは「今までと違う事をする」が一番重要ではないでしょうか。

今だ、反省もせず今までの政策を続投するような体制だけは絶対に阻止するべきです。

幸い壱岐は恵まれた島で有ります、皆様の意識改革一つで先駆者も指導者も育ちます。

「出る釘はたたく」このような事を無くさねば、真の先駆者も指導者も育ちません。

真の先駆者や指導者の存在しない地域には発展は有りません。

このように壱岐は皆様のやる気さえ起こせば大きく伸びる要素が有ります。

意識改革をして一本化を期に、皆で努力勉強百年の計を建てましょう。

鍋の中の蛙

蛙を鍋の中に水から入れ火を点けると、熱くなっても飛び出さず死を迎えるそうです。私たちが鍋の中の社会だけを見つめると、同じように成るのではないのでしょうか。今までの失策を鍋の中で幾ら目を凝らしても何も見えません。

鍋の外からもしっかりと眺めやり直す時では無いのでしょうか。日本国首相を陣頭に国は地方の自立をうながしています。

それに反抗する旧体制の有り方は今だ目を覚まさず、国日よりバブル気分が抜けきらず税金を増やし、国民を苦しめ自分達だけを守ろうとしております。

旧体制を責めるつもりは有りません、「過ぎたるは及ばざる」。しかし反省は絶対必要ではないのでしょうか、今までの過ちを繰り返そうとする人は許せません。

また公共事業を正しく計画的に自立の為に使い、壱岐の百年の計を行わねば成りません。その為には今までのような四つの町で無駄に同じような事を行ない、足の引っ張り合いをするのはいけません。自分が払う金ならそんな無駄な事は誰もしないでしょう。

島が一つになり、財布が一つなら、もっと合理的に出来るはずです。幸い国の指導で一本化が平成 16 年 3 月に実現しました。これも残念な事に国の方針に合わせた「付いて流れ」の感が致します。自立を考え訴え戦い勝ち得た勝利では有りません。

確かに住民発議を起こし、否決され町長発議、と戦って来ました。でもその事は国が飴まで用意して、押し付けられた事柄には違いないのです。

ここに敗戦で得た自由、押し付けられて得た一本化、心配せざるを得ません。新しい門出の一本化、壱岐市の誕生は新しい目覚めで有るべきではないのでしょうか。そのお力をお持ちなのは皆様です、なぜなら壱岐市の運転をする人である政治家を選ぶのは皆様です。ここで今までと違う改めをしない限り、無計画な人を選ぶ事に成るからです。

故に「住民以上の政治家は生れない」の名句が存在します。壱岐を鍋の外から見る事、政策実行の出来る事、とにかく今は「動」無き者は不要です。「日本は変ええずとも我が壱岐は我々で変える」頼もしく唱えて下さい。

日本一幸せな合併

新しい壱岐市は壱岐国の意味でも有ります。四面海の島であるからです。よその町は境界が難しく、どの町と合併しようかと迷い、故に個性も出しにくく、希望なき一本化とも思える所が多いようです。

その点では、国とまで言える壱岐の合併は日本一幸せな合併と思います。一本化と今までと違うのは解りますがどんな所が違い、またどんな所を変えなければいけないのでしょうか。一言で言えば「意識改革」です。

今までの考えを改めてみましょう。お叱りを受けるかも知れませんが「真の欲張りに成って下さい」と表現します。地域を衰退するような奪い合いを続ければやがて自分にも降りかかります。

昔から「種籾まで食うな」の教訓を思えば多く語る必要は無いでしょう。「百を取り合わず千を分けよう」の精神、百を千にして取る欲張りに成ってください。

努力もせず今有る百を少しでも多くと、奪い合うのは醜いおろかな欲です。

また「自然を考えぬ公共事業」「壱岐の宝、海砂問題」「無意味な補助金」などは「種籾まで食う」以上のおろかな事ではないでしょうか。

「愛想の良い穏やかな人」と「百を千にと導く人」どちらが今必要かと言う事です。徳川家康、豊臣秀吉、織田信長の三人三様、個性の違いを良く教訓で語られますが、どなたも徳川家康の有り方が賞賛されるでしょう。信長はいかにも短気で我がままと言いつたはいますが、もしそれを補えば信長の天下も永く繁栄したかもしれません。

信長は人材を学歴、身分で採用せず能力主義を取りました。要る物は要、要らぬ物は要らぬの合理主義でした。また自ら敏速に行動する実行者でも有りました。

今の経営哲学で見ればこのような、信長を学ぼうとする学者も存在する時代です。皆さんがどのように考えられるかは自由ですが、自分の好みでだけで壱岐の運転者を選び満足するとすれば、それは「種籾まで食べて」のその場かぎりの満足に成りかねません。翌年植える種も無く、未来が無くなる事では無いでしょうか。

構造改革は痛みを伴うと言われ国民は耐え忍ぶ時代です。せめて「壱岐が栄えたら自分も栄える」と理解出来るような真の欲張りに成りましょう。貴方のその意識改革こそが壱岐の運命を変えるのです。

特例債はどのように使うべきか

真の一本化に特例債は無用で迷惑な事です。無駄な予算消化の行為が行われるからであります。それは今までの失敗の繰り返しに成るからでもあります。

「こうしたいからこうしてくれ」要る物は要る要らぬ物はいらぬと言える計画性を持つべきです。折角の白紙のスタートを無駄にははいけません。

これからの四町合併した政治と、今までの政治とは大きく違います。伝馬船と大型客船ほどの差があり、大型旅客免許を持つ操縦出資が必要となります。今までの至らぬ風習は排除して一本化に添った行革が必要なのです。

それは特例債の使い方に壱岐の明暗がかかっております。将来の壱岐を踏まえ必要な物は堂々と求め、馴れ合いの押し付け工事、身支度的工事には特例債は使うべきでは有りません。小泉政権も自由に使える地方交付金をとまで唱えております。なぜなら地方の自立を望むからではないでしょうか。

これからは地方でも運営の良し悪しで大きな格差が出てきます。壱岐市長、議員の特例債に対する処置は身を細めるくらいの責任感と緊迫感を必用とされるはずで

一本化は知恵も力も四倍が理想

平成 16 年 3 月に壱岐は晴れて四町が一本化し壱岐市になりました。住民はどのような思いでしょう。

「喜ぶ人、嘆く人、しかたないと不安がる人」いろいろ各自の思いがありましょう。なかには「どうでも良いと」人事に思われる方もいられるかも知れません。

今日のようにこれだけ好き勝手に政治家が利権に動けば政治不信に成るのは当然かも知れません。昔のような大義名文で語る政治家は少なくなりました。

しかしその中でも改革を唱え懸命に大義名文にまっとうする政治家も存在するはずです。

自由をむさぼるだけでなく、正しく選ぶと言う義務を自覚する時でないでしょうか。日本を変えようと言っても題目が大きすぎて歯がたちませんが、私達の身近な地域は皆さんのちょっとした気持ちの持ち方で変える事が出来るのです。

政治の利権が少ない人ほど政治に無関心に成りがちです。だからますます利権がらみの人の政治になります。益々嫌な政治になり益々無関心になりたく成ります。

皆さんが先駆者の育つ島、そのような土壌にすれば立派な政治家が幾らも育つはずです。誰が壱岐を守ろうとしているか、守れるのかを重きに置き、その人の唱えるマニフェクトで選ぶ時期ではないでしょうか。そうする事は貴方が自由を唱える為の義務なのです。

一本化は四倍の智恵と四倍の力を有意義に使える行政と住民が必要なのです。過ちを四倍の力で行なえる最悪の要素も備えているのも一本化なのです。

海砂問題

今壱岐で重要な一つはこの問題で無いでしょうか。

海砂採取の影響は言わずとも誰もが解っておられるでしょう。海砂は壱岐の宝なのです。

私の知合いに以前砂取りを営む者が居ました。彼に聞いてみました。

「砂を取ったら漁業にも観光にもマイナスだろう、なぜそんな事をするのかと」

「悪いのは充分解っている、海の中だから見えないだろうが「岳の辻」位の山は幾日かで掘ることが出来る、恐ろしい事だ」。では何故掘るのかと聞き返しました。

「私が掘らなければ壱岐以外の業者が掘るから」と答えてくれました。

「掘ってよいと許可を出すのだからおかしいよね」とまで言った彼に心の奥には郷土愛があるのだなあと変な感心をしたものです。漁師さんも同じような事を言うのを聞かされました。「悪いのは解っている。売れる物は売って金にしたが良い」となんとも言えない気持ちです。こうなると誰が悪いのでしょうか。

皆さんが認める水戸黄門のお墨付きの紋所じゃないが、「法律」では無いでしょうか。人はお天道様に真っ直ぐ生きるのが本命、その真っ直ぐを文にしたのが法律、文にしたとたん幾重にも取れる意味合いとなり弁護士まで要る。

法律は人が決める物であり法律だから守るのは当然だが間違った法律は変えるべきです。その立場にある者と島民の誇りある意志を呼び戻し全員で唱える以外に術が無いのか。

先駆者を尊ばないから、率先してこれにぶつかる先駆者が居ないのでなかろうか。すでに島民の意志は固まりその任を貫く指導者の出現を待つだけであると思う。先駆者となる素材は壱岐には充分存在するはず、勇気ある真の指導者が育つ壱岐を期待したい。

航路問題

離島振興法は内地と離島の格差をなくす為に出来た法であるはずですが。

離島のハンディは交通であり航路であります。

今までは国からのばらまき事業で国の企画に合わなければ、何も成せない状態でした。その為か航路問題もおかしな規約でしばられたうえ、改革の気迫が見えません。航路問題こそ離島の抱える第一の問題にするべきであります。

現在国は地方の自立を願い、規制緩和を含め、地方からの独自の企画を奨励するような時代に成って来ました。今までのように国の規制に合わせようとせず、要る物は要る要らぬ物は要らぬときっぱり言えるような企画実現を考えるべきで無いでしょうか。

内地との格差を取り省くには、通勤可能な料金と時間帯、車社会に合わせてフェリー料金の見直しを、第一の補助事業と考えるべきでないでしょうか。通勤可能な航路であれば何のハンディーも無く行き来でき、美しい自然の島を誇りに思え、いろんな活用も生じてくるのではないのでしょうか。

福岡在住の壱岐の方も通勤可能な料金であれば壱岐に家を建て通いたいと言われました。また福岡に就職した方も移転せず福岡に通勤でき、郡内に専門職が必要な場合も福岡からの雇用が可能になり、より高度の高い地域造りが出来るのではないのでしょうか。

これらを考えれば相当の補助金を使っても余りあるのでないでしょうか。現行の船会社との相談を第一としますが、基本としては壱岐株式会社として、住民一丸として検討する価値は充分に有ると思います。

観光セクションの強化

壱岐の産業には農漁業、商工業、観光業があります。

何れもこれからの産業活性化は観光と連携をとる事で大きな飛躍と成ると考えます。

すなわち地域産業と観光は一蓮托生の産業なのです。 今日観光をないがしろにする方は存在しないでしょうが、まだまだ観光に対する政策は本気で取組まれておりません。

観光と言えば旅館、民宿、おみやげ屋位にしか思わないレベルでないでしょうか。世界中眺めてもその程度しか考えない行政、政治家はいません。観光は農漁業、商工業の為にも隋一の外から導入する+アルファーであり宣伝営業マンであり地域そのものです。

だからこそ、どのような国も観光を大切にします。

観光は旅館、民宿、おみやげ屋でなく地域そのものなのです。にも関わらず観光は設計図も基礎も無く思い付きで成されるパフォーマンスとしか受け取れません。

個人の役割、行政の役割をすりかえず真剣に取り組むべきです。

行政は道路、下水道等のハード面とか交通問題など個人で出来ない事を行うべきです。

日頃考える壱岐の生活整備を未来観光につながるように心がければよいのです。

それが出来ないのは観光を理解しないか、計画性がないか目標がないからです。

行政は監督に徹せねばなりません、選手と違いプレーはしないのが普通です。

あくまでもプレーするのは住民である選手なのです。

監督は選手がプレーしやすいようにあらゆる指導と気配りが必要なのです。

その為にはコーチをはじめいろんな選手を指導する人を採用しなければいけません。

その代行としての観光セクションを必要と唱える者です。

それは監督である市長の諮問機関、他の者に委託などの機関を指すものです。

その業務は「総括庁的観光セクション」すなわち各産業の連携推進です。

一例で申しますが以前観光会青年部を結成した時美化運動で花植え運動を企画しました。その時の事です農協青年部長からおしかりを受けました。

「あんた、言う割にはつまらんな、私達が協力を求めたら断られた」本当に私を軽蔑した

言い方でした。私はこの言葉で二つ驚きました。一つは喜びの驚きです。

花植え運動は地域ぐるみでなさねば出来ない事です。

それを観光青年部に協力したいと言う心意気に対しての喜びの驚きです。

二つ目の驚きは嘆きの驚きです。それを断った者の目線の違いを感じました。

観光青年部でいくら励んでも島中に花を植えるのは不可能な事です。

地域の人皆がその気になり参加して頂かねば出来ない事です。

断った者も深く考えず、観光青年部の事業と思ったからのようです。

このような横の連携を理解せず地域造りは出来ないでしょう。

このように観光は観光業者だけでなく地域全員の大切なものなのです。

この事と同様農産物、海産物、商工業を連携できるように努めるのです。

それを行政が直接でなく民間に依頼した形を望みます。

行政と一步離れる事で行政の持つ足かせをはずし独創がしやすいからです。

観光を起爆剤に取り組んだ農漁業

農業においても壱岐にも輸入農産物の影響を受ける時がくるやもしれません。

今は稲作、肉牛は別としても野菜類は外国どころか内地にも及ばぬ体質があります。

それらを思い将来性を考えれば、「食の安全化」を付加価値として考えます。

その一つとして「有機無農薬の国における認定制度」があります。

現行の農家では今の仕組みから簡単に脱皮出来ないでしょう。

それは専業農家でないからです。

今はともかくこれからの後継者には食の安全は力強い目標で有り得ると考えます。

そして国民の健康を担う保養地には食の安全は重要な目玉になります。

今のままで良いとのご意見が多くありますが、将来を考え、壱岐の特徴と照らし合わせても有意義な事であります。有機無農薬「壱岐」の存在は観光面にも住民の誇りとしても知名度があがり、奨励すべき事だと思えます。

例えばその奨励が、農業に於いてのみの奨励であれば一つの力でしょうが、活性化と観光と連携した物であれば三つの力で応援でき新しい参加者が現れるでしょう。

漁業におきましても食の安全性、観光をからめたブランド商品開発により前進する物と思えます。特に壱岐近海魚の見直しは玄海の美しい自然を活用し大いに期待できるものがあります。高齢化に伴い陸上養殖、漁船の遊漁船への兼用の道も考えられます。

特にウニの知名度があがるにつけ、品不足で逆に悪評にもつながりかねません。

ウニを中心とした磯物の養殖も必要ですが、個人では不可能な点が多く、

行政指導の必要を考えます。

漁業も他産業と同様観光をからめ高齢者対策、活性化と立割をさけ連携する事によりよく取り組みやすい状態とするべきであります。

これらの農漁業の地場優先は現在の流通機構では難しいかも知れませんが、物によっては「地場優先」の個性ある発想が長い眼で見れば定着した商品に成ると思えます。

来て頂き、食してもらい、買ってお持ち帰り頂く「地産地消」の感覚が地域全体の定着した発展につながるものと思えます。農漁業の生産の基盤は現在を越えた夢のある取組

なしではでは後継者の出現はなく、後継者なしでは将来はないのではないのでしょうか。

観光の流

「人と違う事をせよ、さもないとそれは新しい事とは言えない」と教わった者としては観光の未来の目的を低い目線で多数決にて決めるのはあまりにも無責任な事と思います。

素晴らしい誇れる壱岐人、それも島ゆえの閉鎖性、自分たちだけの世界ではその才能が閉ざされ大変勿体無いと思います。

最近では海外旅行テレビの放映等で顧客のニーズの上昇には驚かされる事ばかりです。当然予期された事ですがペンション民宿の施設では学生位しか対応出来ない時代です。もちろん宿泊業もいろんな顧客をターゲットにされるのは自由だし。

顧客も望む店を選ぶのです。しかしそれとしても知名度が高くなるほど有利なはずです。その知名度のレベルアップを唱えているのです。バブル崩壊、離島離れと重なりおまけに旅行業者が言うには「餌でだけ釣れる時代は終わった」今までの美味しい物さえ出せば良いとの時代は過ぎ去ったようです、おおきな見直しのときです。

激安ツアーの流行も重なりました。観光は地域そのものと申しあげました。

今こそ行政の力が必要です。それを支持する声はもっと重要です。

今までは行政に頼らず自分たちでと胸を張った人が多かったため遅れたのです。

行政の役割地域造りのハード面をどうして個人の集まりで出来るのでしょうか。

一例ですが総合保養地域整備法（リゾート法）では「重点地域においては国民の健康の為の行為をなすものには助言または援助しなければならない」とうたわれているのです。

時代に合った観光をなしたい観光業者には有り難い法案なのです。

観光業者がもう少し観光に力を入れてくれと声を出すべきではないのでしょうか。

自力では解決できない物は大いに声を出すのは当然の権利なのです。離島振興法が観光に今まで生かされなかったのは皆が声を出さなかったからではないのでしょうか。

ここまで冷え込み後継者も無く無気力になるのは解りますが、いろんな意味で支え合い将来の観光発展に尽くすのが後継者に対する役目でないのでしょうか。

私達で「壱岐を食いつぶす」行為だけは避けたい物です。

特に市長をはじめ壱岐市行政にたずさわる方々の責任の重さはなみならぬものです。

ゴルフ場問題

今日バブルが弾け、いたる所でゴルフ場の倒産が続いております。壱岐カントリーも、経営の良し悪しを問うには余りにも世の不景気で問い難き事で有ります。

経営も悪化するのみで先の見通しは不透明で、良くなる要素は有るのでしょうか。

18ホール拡張で乗り切るとの経営陣の方針のようですが、壱岐カントリーは第三セクターであり、町すなわち税金で最悪の場合支払われる事にも成りかねません。

今の状態では拡張は無理と考えます。町に迷惑をかけず独自でも行なおうとする熱意は、認めざるを得ませんがゴルフ愛好者としてゴルフ場が無くなる不安を隠せません。

四町も知らぬ振りでは通せなく、何れその付けは払わねばならない時が来ます。

傷が浅いうちに経営陣の救済を含め話しあうべきと思います。

現経営者が18ホール拡張で私財を掛けてやられるのも結構ですが、無理をせずここまで

立派なゴルフ場を育てられた誇りある終結を願うしかないと考えます。

そこで「壱岐にはゴルフ場は必要なのか」と原点に戻ってみれば、目先のことだけ考えれば赤字がつるばかりのゴルフ場は無用と言う人もいるかも知れません。

しかし将来的に考えるならここでゴルフ場を無くすと言う事は壱岐の未来を考えない、ただ今の自分しか考えない許されぬ行為ではないでしょうか。かといってたちまちゴルフ場が黒字経営になる事はなかろうし、なるとしたら壱岐のためにならない一部の人のゴルフ場でしかなかろう。最終的には壱岐市が無関心ではおられないはずです。

しかし壱岐市が継ぐとすれば莫大な負債を担う事になります。それではいくら権限があるとしても市長も議員も首を縦に振る訳はないでしょう。

外野から申しにくい事だが現行の経営陣の誇りある愛郷心の幕締めを願い、と同時にメンバーの理解に頼る他はないのではないのでしょうか。愛郷心とは新地で次代にバトンタッチする事です。ゴルフ場を「壱岐ゴルフ場を守る会（仮称）」に壱岐市との中継をとらしてはどうでしょうか。ゴルフ場が消える事は壱岐の灯火が消える思いを感じます。

「市民のゴルフ場」として活用を考えれば、いろんな波及効果が期待できると思います。低料金のプレー費で若い人にも老後の人にも手軽に出来れば若者の定着、老人の健康維持につながり壱岐市としての大儀名文が立つはずです。観光にも気軽に利用出来るゴルフ場の方が歓迎されます。将来近郊都市との福利厚生契約を結ぶ上での好条件要素にもなります。何れせよ無関心では通れない問題ではないのでしょうか。

一本化後の観光協会

現在壱岐観光協会、石田観光協会、勝本観光協会などが存在します。一本化になると観光協会をいかにするべきでしょうか。

今有る各地域別の観光協会は予算こそ少ないが、壱岐観光協会では出来ない独自の地域に合った、こまめな取組を致しているのも現実であります。

しかし地域の競争があればこそお互いが伸びる良さも有りますが。それを超えて一緒に考え理解し合う事の方が、将来性があると思います。

町の一本化同様、壱岐観光協会にまとめ、各地区を支部として扱うのが筋道のようなようです。その場合でも問題は山積みされ簡単には行きませんが、いずれにせよ越えねば成らない問題です。その為にも観光協会のあり方を、一本化と同時に改革しなければ成らないと思います。

特に各町の観光協会の会費と壱岐観光協会の「会費」で有ります。お金を集めるためだけでなく少しでも多くの人に参加頂くためには、現行の観光協会の会費は高すぎるような気がします。現行の会費では一部の業者団体しか加入出来なくなり、一部の為の観光協会となりかねません。より多くの会員を集め一丸と成った協会を目指すべきです。それにより壱岐市としての観光政策もやり易くなるはずです。

観光の浮き沈みは観光業者だけの問題では有りません。今日の状態では壱岐市としても観光の重要性の理解は今まで以上に考慮すべきです。観光協会と壱岐市の観光政策とリンクさせては如何でしょうか。

企業努力で成すべきものと協会員の公平性にもつながると思います。結果論で申し訳ない事ですが成果があがらない物はいろんな模索をするべきではないのでしょうか。

郷ノ浦地区

行政、文教区、商業地の中心となる地域であり、景勝地も有し壱岐最高の山である岳の辻が有る壱岐一番の町であります。従って中心地としての集客は壱岐一番ですが、人口減及び高齢化により、年々活気は少なくなるように思えます。

壱岐の衰退は郷ノ浦の町の衰退となる因果関係が存在します。

その上、商店においては船便の便宜性と同時に逆にさびれる可能性は有ります。

それに対応出来る交流人口の増加に期待した、新たな商店街造りが必要と思います。また壱岐全体が活気を取り戻す事が中心地である郷ノ浦の発展につながると思います。もちろんそれにふさわしい街造りは当然必要と思います。

特に飲食街は、集結する事により連鎖的に繁栄し、活気を取り戻す事に成ります。

郷ノ浦は特に壱岐の衰退、人口減に一番影響を受けると思います。

それだけにリーダーシップ的存在が必要ではないでしょうか。

人口以上の購買者交流人口が増え、その結果として町が栄えるといった当たり前の理論を、真剣に理解するべき時で無いでしょうか。

今の観光客集客程度ではその効果は解りにくいと思います。

それが5割、10割と増えた時にはその効果を誰もが肌で実感出来るでしょう。

どの地域もエゴを無くすのは急には難しい事かも知れませんが、それを越え無ければ壱岐はいつまで経っても発展は無いですよ。

他の町は、郷ノ浦を壱岐の行政文教区とする町造りを認めるべきです。やたら何でも真ん中に作るのが公平と言うのは、自己満足で本当の壱岐の発展にならないと思います。適材適所お互いの地域を生かしてこそ力強い壱岐となるのでないでしょうか。

郷ノ浦も「何でもかんでも郷ノ浦」と言った考えは改めて欲しいと思います。

壱岐の大都市らしく、他町の個性まで力で奪わず、お互いの地域の発展に力を貸すべきと思います。昔ながらのエゴを振り回すものを排除しましょう。

一本化壱岐市は各地域の活性化の連携こそ重要な事です。

芦辺地区の役割

壱岐で一番の農業地域であり、福岡に最短の港湾を有し芦辺、瀬戸の集結を成し遂げ、埋め立て港湾を中心に理想的な地域造りの可能なスペースが形成されています。

また勝本に通じる北海岸は未開発の自然そのままの海岸線を有し、これらは壱岐の将来の可能性として力強い地域であると思います。

交流人口受け入れ限界を伸ばせる、第二の商業地と成る要素が備わっております。

他の地域同様人口増加に左右されるのは同じで無いでしょうか。

その為には「一本化」を地域エゴで抑える事は壱岐市の発展を疎外し、得策ではないのは他町と同じと思います。最近定着しつつある個性有る店舗の出店は第二の商業地としての大きな役割を努めていると思います。

港は近くにあればあるほど便利で良い訳ですが、地域発展の理想を言えば利用者に対してのバランスが取れないと、どの港町も中途半端で採算が取れず共倒れを招きます。

それを避ける為には利用者を増加させねば成りません。
その為には目先だけ追わず、一本化を期に交流人口の増加にお互い努力すべきと思います。

勝本地区の観光

勝本地区は漁業中心の勝本と温泉の湯ノ本とで形成された、有る意味で言えば地場のにおいがする壱岐らしい特徴を持った観光地と言えます。

最近訪れた観光客が必ず辰ノ島、イルカ池等を中心に人気が上がっています。
辰の島、若宮、名島の無人島と漁師町の風情は必ず旅行通に受ける事と思います。

湯ノ本においてもあと少しの観光客の増加があれば湯の町風情が整うと思います。

イルカ池

イルカ池の人気は年々広まり、大きな目玉として定着しております。
イルカ Therapie は大変な人気を取りながら、イルカ池の水質が悪化し、休業状態なのは大変残念な事です。その上イルカの確保が出来ないのは何をしても成すべきです。

法律が許さないとあきらめずその法をクリアーする方法があるはずです。

「出来ない」のではなく「やろうとする意欲」が大切ではないでしょうか。

それと並んで近年イルカ池のメンテナが現在の状態では目一杯の所に来ているようです。

「現状の状態での飼育の限界」でも有るようです。方法としては

- 1, 解決策は、蓄積した汚物の除去を容易に出来るような構造改革を施し、現在の状態を維持する。
- 2, 人工海への企画への変換。(自然を表現した水槽)
- 3, 全体的見直し、場所も含め検討しなおす。 等の方法を検討する時でしょう。
 - ①案はそのままその都度、汚物を除去する方法と底をコンクリートでひきつめ汚物の除去が作業し易いようにする方法が考えられます。
 - ②案は一般の水族館同様、完全に人工海を作り循環か開放式循環との組み合わせを取り、温度調整も出来るようにする方法です。
 - ③案は新たに場所を含め企画設計を見直す方法です。

イルカ池と特例債

新庁舎は軽々と言える物では有りませんが、勝本の利益をお考えとすれば、言わせて頂きます。 新庁舎を新たに建てるには莫大な費用が掛かります。 それを承知で望まれるなら結局は壱岐の特例債を身支度に費やす事になります。

活性化の為の資金を失う事になります。 特例債は身支度に使うべきではないはず。身支度は当分継続する地方交付金内で調整するのが正論ではないでしょうか。

このような事は壱岐の衰退を促し、そうなると勝本も発展はしません。
壱岐も勝本も良くならぬ結果が見えております、結局誰も良くなりません。

しかし新庁舎の約束があるのは問題です、我慢なら無い事でしょう。
もしお耳をお貸し頂けるならその代りと言う事は出来ない事ですが、イルカ池とか辰の島整備に代替とはいかないものでしょうか。

この事は新庁舎より何倍も勝本の活性化になるはずです。

勝本も良くなりますが壱岐も良くなります。このような連携理解は壱岐の将来に大きな良い影響を呼びます。これこそが一本化の意識改革でないでしょうか。

辰ノ島

無人島辰ノ島の魅力は、本物の自然を思わせる魅力有る島であります。通の観光客に耐えうる要素を備えた島でも有ります。

手を付けてはいけない場所、言い換えれば下手に手を加えると価値が下がるからです。昔の賢人がキャンプ禁止をなされたお陰で今でも保たれた自然を生かすべきです。それを踏まえた上での保護開発を勧めます。

自然にマッチした遊歩道をもうけ景勝、名所を楽しめる方法を取るべきであります。その方法は自分たちで迷わず行ける道しるべを設けるか、ボランティア的ガイドの育成のいずれか出来ればと思います、又両方を備える事は最善で有ります。

現在の防波堤の役割は機能をはたしているかさして役に立って足っていないかの状況判断でしか意見は述べませんが、外側の防波堤はあまりにも自然を妨げていると思います。

そして現在の建物は全くマッチしない建物で有ると思います。このような場所の建物は、その建物がその自然を引き立たせる建物設計で有るべきです。たとえば断崖にたつ西洋の古城のようにお互いが引き立たせる感覚が必要と思います。手を加えても自然を引き立たせるような結果を成すべきです。

一番の問題は島までのアクセスであります、その間の航路を楽しませる手段を考えれば逆にその事が魅力の一つになると思われます。

石田町・保養地重点地区の役割

石田町は恵まれた故の「空気論」。身近すぎ、良さを生かし切れなかったと思います。故横山孝雄氏の描かれたリゾート案が継続されなかったのが残念です。

筒城浜を石田町だけの宝でなく壱岐の宝と訴えてきました。私は現実勝本出身で有りながら住み着いてそれを証明しています。どのコンサルタントもA級の観光資源と賞賛しながらこれほど発展しないとは夢にも思いませんでした。

勝本の親戚はなぜ勝本に来なかったのと不思議がりましたが、筒城浜の整備ができて初めて壱岐が観光のスタートを切ると自信満々語りました。

それが済めば勝本に帰るとその時はまじにそう信じていました。都会で通用した自信は見事に打ち砕かれ35年唱える計画は何も出来ませんでした。

しかし憧れの一本化の時代が来た今こそ一歩踏み込めるかと期待しております。

総合保養地域整備法と滞在型保養村

観光には見る観光、行う観光、滞在型の観光等に分けられます。今日までは見る観光が主流で有りましたが近年行う観光、滞在型の観光への移行が見受けられます。観光と言えば、個人では自分が好きな観光地に行けば済むことで安易に観光

を理解出来ますが、それは自分の観光（好み）なのです。

産業としての観光はそうは行きません。顧客の最大公約数の要望、時代性、将来性まして一番重要な地域に与える影響など考えねばなりません。

それ故に各人がああこう言う為に引っ張り合いが生じているようです。

ここで述べる観光は保養を中心にした滞在型の観光村造りです。

その地区全体のバランスある地域造り、地域その物を目玉にしようと言う計画です。

壱岐が一本化に成らない為に 35 年間、日の目を見ない理解されなかった計画です。景気が良い時代に取上げておけば完全に理想の滞在型保養村が完成していたはずです。

また今日このような先行きが不透明な時でもリスクの少ない案でも有ります。とは言え現在の経済状態では一度に全体計画に着手する事は残念ながら無謀と考えます。しかしあくまでもその完成へ向けた百年の計画としての骨組みは必要とします。

その骨組みに沿って必要に応じて取り組む一番リスクの少ない形で行います。それをする為には「特別保養地整備法の指定」等の制度が必要条件と成ります。

国の任務である国民の健康、企業での社員の健康、島内では島民の健康を守る為の特別保養を私達の島が担う事でそれを観光の目玉にしようとする事です。

当計画は「補助を最大限有効に使い近郊都市の顧客と資金も同時に獲得して始めて着手する」リスクが少ない上に私達の福利厚生を都会以上に導いてもくれます。

したがって一度には理想の観光保養村としての地域の完成は無いでしょうが、近郊都市と島内の福利厚生施設の観光の目玉にする事だけでも大きな成果ではないでしょうか。

私は共鳴者の集まりが地中海クラブの原点だと思っております、顧客と資金を同時に確保して共鳴者の夢をかなえたのです。当計画もその共鳴者を近郊都市、島内から募る事でそれらの利用者が望む夢の実現を目指せば理想の滞在型観光保養村が完成し、

その力と壱岐市の政策と合わせれば「ジェットフォイル往復 5,000 円、今休航の飛行機を蘇らせ、島内アクセスの整備、ゴルフが 3,000 円等々と出来る可能性は十分に考えられます。

特別保養地整備法拡張願いの必要性

現在では特別保養地整備法（リゾート法）は多くの失敗例で、これに取り組む地域は無いに等しい状態であります。シーガイヤー、ハウステンボス等の適用例を見ればバブル時代に合わせた法の適応で有ったとしても、本来の保養地整備とはかけ離れた計画で有りながらも取り入れられたのは不思議に思います。その結果バブルが弾ければ状況は変わり

失敗に終わったのは当然のように思われます。当計画はバブルが終わり今成す術が無い状態の観光活性化として、近郊都市と郡内福利厚生、リハビリ施設に保養を超えたセラピーを核として取組み、必要に応じて着手するリスクの少ない計画で有ります。

その為には特別保養地整備法の指定地域拡張の認可が第一の実務と考えます。

法の真髓が国民の保養であり、それを受け持つ地域との連帯で有るなら、今まで当計画が適応されなかったのは地方の個性を無視した、国の指導型で有った為だとも思えます。

直接県への打診を致しましたが、壱岐が「総合保養地域整備法の拡張願い」を出さない事にはどうしようも出来ないとの事でした。

一本化の機運で壱岐の活性化の必要がせまると共に石田町で「総合保養地域整備法の拡張願」を提出が決定され手続きが開始されました。

当然地方の自立を促す期に県がそれを拒否する事は出来ないと思いますが、壱岐でのそれに対する熱意を当然示す必用があります。

特別保養地整備法の資質

1、保養地としての資質が有る

当重点地区としては筒城浜を筆頭に七浜を有し、国選水浴八十八選にも認定された、南向きの温厚な海岸線を有し、最適の保養地としての要素有するのは過去に調査済みです。

島内総てには美しい海に囲まれ歴史、景勝地、無人島の自然等、国民の健康と心の癒しに最適な条件を備えております。

顧客としてアクセス1時間から3時間ぐらいで可能な都市部を福岡、北九州、久留米と南は宮崎、上は広島と言った顧客を有し、最適の保養地の条件を備えています。

2、地方分権において財源確保に欠かせない

これからの国策として地方の個性と独立性を求める傾向のなか、地域特性を生かした観光企画は壱岐の特徴を生かした物であり、現在の国策に完全に沿う物であります。

自分達地域の個性を訴えて取り組もうとすれば国、県も協力を惜しまないでしょう。これこそが自主性ある地方分権に添う物と思います。

3、近郊都市、郡内との福利厚生

従来は企業の保養所とか個人における別荘は資産確保のバブル的普及が起きました。その維持には莫大な費用が必要であるのさえ無視して増え続けました。

バブル崩壊がその無駄な行為を反省させ多くが閉鎖されております。そのうえ福利厚生どころかリストラ時代に突入し急変しました。

しかし低成長でも安定さえすれば国民の健康への関心は芽生えるはずです。

その時こそ今までの反省で無駄の無い福利厚生が必要となります。その役割を担い代行する者の必要性が起こると思われれます。

そこで地域型特別保養地整備法の趣旨を唱えた地域の必要性が出てくるのです。そのときは保養型リゾートの役割は大きく日の目を見て、はばたけるのです。

4、特区との関連

国は地方分権を境に地方の自立を促す為いろいろな規制緩和を試みてくれます。その中でも特区制度はいかに国が本気であるかの証になる画期的緩和です。

官僚主義から民間への幕開け、不都合な法案まで緩和し自立を助けます。このような傾向に添えない地方は遅れを取るのは必然です。

壱岐においてもこのような制度を活用できる自主性が必要です。

壱岐のハンディーで一番は航路、空路の問題であります、今後の壱岐の魅力的発展に必要なのは通勤可能な料金と時間帯ではないでしょうか。

航路問題をはじめ商業圏が福岡であるために起こるテレトリーその他足かせになるようなものがあるなら特区を活用するべきではないでしょうか。

滞在型観光保養地の概案

1、立地条件

別項でも述べましたが重点地区は筒城浜を筆頭に七浜を有し、国選水浴八十八選にも認定された南向きの温厚な海岸線を有し、最適の保養地としての要素を持っております。

顧客としてアクセス一時間から三時間ぐらいで可能な都市部を福岡、北九州、久留米と南は宮崎、東は広島と言った顧客を有し、最適の保養地の条件を備えています。

2、海の魅力

海の魅力は夏季の見直しで述べたように夏泳ぎに行くと言う習慣はディズニーランドに優るほどの大きなイベントです。夏は採算の取れる十分な可能性がある訳です。

この市場を考えれば夏型の保養型リゾートの整備に対する採算効果は成り立ちます。壱岐の一番大切な夏場の観光整備を助ける事になります。都市計画に添った自然的発生を論じましたが、今の観光衰退のためにも一番に取り組べき事業であります。

3、島内における交通アクセス

島内の観光アクセスはまったく無に等しい状態です。

需要と供給の原理、お客さえ増えればその対策は容易でしょうが今では無理です。

採算が取れなくとも波及効果のある案が考えられる必要があります。

レンタカーはシーズンの時は不足しますが増やすにはシーズ外は利用者がいない。

観光地をアクセスする定期的路線を組むには採算が取れない。

このような問題を誰かが考えるべきではないでしょうか。

フェリー運賃の改善も大きな解決法と思いますが、誰の役目でしょうか。

私達の熱意を集め行政に願うのも、行政は自主的に行なうもどちらも不足のようです。

4、重点地区内道路と取り付道路

道路及び下水道は地域造りの基本であります。

絵を描くのにキャンバスが要るのと同じです、キャンバス無しで絵は描けません。

保養型リゾートの分担として、重点地区の道路、下水道、公園整備、等の基礎工事は行政の役割になりますがそれは郡内事業としても必要な事です。

良いキャンバスを用意する事で保養村への民間参加が生じ、そこに素晴らしい滞在型の理想の村が描かれるのです。

このキャンバスを造るのが特別保養地整備法における行政の大きな役割なのです。

壮大すぎると思われる方もいらっしゃると思いますがここまで考えるのが都市計画ではないでしょうか。それに少しずつ近づく努力が必要です。

5、海岸保養道路は最大の目玉

海岸保養道路は壱岐の魅力を示す最善のセレモニーと思います。

港を降り海も見えない道を通り宿に着くのと美しい海岸通りに魅せられて宿に着くのは大きな違いであります。また来客にドライブでも勧め、自然の海の魅力をお見せ出来る事は、壱岐の資産価値は百倍に成ると言えるほど最大の目玉です。

もし壱岐が早くに一本化であれば実現していたと一番悔まれます。
今日では至難の事業でしょう。

しかし「海岸保養道路」となればそのチャンスは大であります。
岸保養道路こそ壱岐に取りまして最も重要な投資的公共事業で有ります。
自立を促す意味での稼げる道路だからです。

自然破壊を避けた工法で「自然を見せる為の癒しの道」を作るのです。
自然を大切に、むしろ自然を保護しながらの道路作りであるのは必然です。

6、重要地域の電柱の排除

近郊都市の保養地として自然と電柱ほどアンバランスは無いでしょう。
都会でさえもはや電柱など地下に通す時代である。電柱は自然を売りとする壱岐としては「ホウキを置いた客間に客を通す」気さえ致します。

重用地区は新たな区間夢の都市計画が出来る空間でもあります。
その中だけでも電柱は排除したいものです。

7、マラソンコースの整備

現在歩く事や走る事は健康法として誰もが重視しています。
国民の健康に対する意識は益々高く成るようです。
すでに日常的に習慣付けた人も大変増加傾向です。

保養地としてその整備を備えるのは基礎的行為と思われれます。
潮風のなかでのジョギングは身も心も癒され、タラソセラピーの醍醐味でも有ります。

筒城浜は観光客だけでなく島内にもその雰囲気を楽しむ人が増えております。
郡体のマラソンコースの指定も受けた地域でも有り、コースの整備が必要です。

例を示せば福岡の大濠公園マラソン道路を紹介いたします。

8、防波堤の自然石による自然化

壱岐は自然豊かと言われて来ましたが、その豊かな自然も生活優先とされた公共事業により破壊され、景勝地に於いても生活優先で出来た堤防は、今やその地区の景勝を阻害している状態が生じてあります。有名な評論家が何年も前に「これからの公共事業は作りすぎた堤防を取り払う事だ」と述べていましたがまさにその通であります。

その指摘のある時代に作られた事は許しがたい犯罪であります。

その防波堤を自然石で囲み造園化し、自然を復活させる考えです。
最後のページに参照写真を掲示いたしております。

自然はそのまが良いと学者が言います、しかし手を加える個所も必要なのです。
それは皆様の庭に雑草をはやすのではなく、庭造りをするのと同様なのです。

9、椿公園（四季の花）の建設

島の椿は有名と語り継がれていますが、今だその姿は手軽に見ることが出来ません。自然の島と言われながら自然美の存在さえ危ぶまれる状態では自然は保護の時代です。

「壱岐は自然の島、全体が公園」と言う人ほど自然破壊を気にも留めないようです。その自然を復活して身近に活用出来る公園を造ると考えてみて下さい。

重点地域にはその雰囲気が必要です。重点地区の生け花としての椿公園です。小規模ながらも四季の樹木と花を称えた椿公園を整備する事は、観光客は勿論島内の住民のためにも価値ある取り組みでないでしょうか。

10、近郊都市の福利厚生としての設備

近郊都市の福利厚生を担う保養村としては、これら顧客の要望を良く調査し満足させる設備を備える事で参加利用が増えます。

現在都会ではスポーツランドは日常の感化で素晴らしい環境が出来ております。その為同じ様な事では興味を注がれないでしょう。

島である島らしい取組が必要と思われまます。

その一つとしてタラソテラピーは島に相応しい取組と思ひます。

自然と融合した設備が出来るのは海に触れる事が出来る島だからの個性です。それを生かすさえすれば、壱岐の将来はこの上なき価値観がでると思ひます。

11、保養地と郡内医療との連携（タラソテラピー、リハビリ）

保養地としての機能にテラピーは欠かせない物と考えます。

現在は保養の時間を取る事さえ危ぶまれる不透明な時代では、保養からテラピー（療養）と移行する時代性でもあります。

その為には医療との連携の下で計画を随行する必要が生じて来ます。

この場合のテラピーとは予防を中心に考え、軽度のリハビリ並びに心理的健康を中心に行われる物であります。その為には島内医療の連携も重要と成ります。

12、タラソテラピー

欧州と日本における海と健康の歴史

「夏海水浴に行くと、風邪を引きにくくなる」といわれるように、海の持つ健康増進効果は古くから認知されていた。また、「皮膚病は海に入ればなおる」といわれるように、海の持つ治療効果も古くから認知されていた。欧州では、かの古代ギリシャ医学の祖であるヒポクラテスが海水を治療に用いたとの記録が残されている。海辺の気候と海水を様々な手法を用いて積極的に健康増進や美容、そして機能回復(リハビリテーション)や治療目的で活用する、気候医学療法の一つに位置付けされる。1960年にフランス医学アカデミーでは「海洋性気候作用のなかで、海水、海藻、海泥を用いて行う治療」と定義し、1961年にフランス厚生省は「医学的監視のもとで海水、海の空気、海の気候を組み合わせる治療効果目的で利用するもの」としている。平成七年度厚生科学研究補助金健

康増進研究事業「健康づくりのための休養手法の開発に関する研究・報告書」では、海岸療法として「海水、海の空気、海の気候を組み合わせた保健効果を治療目的に利用」することとしている。適応症には、腰痛、関節症から代謝・循環器・皮膚疾患などがあり、温泉療法と類似している。フランスでは最近の利用傾向として健康増進目的が多く、その他に美容(エステティック)、痩身を目的とした利用に人気があり、一人平均六日間の滞在期間が中心となっている。タラソテラピー(海岸療法)では温めた海水を用い、その物理的効果(温熱、浮力、水圧など)、科学的効果(海水、海藻の成分によるもの)、脱ストレス(転地、気候、環境の変化による)などの作用を医学的効果に利用している。

財団法人海洋健康科学財団

昭和大学小児科教授

琉球大学医学部名誉教授

出口 宝

飯倉 洋治

小張 一峰

日本医事新報 No3917 1999年5月22日に掲載

※文中医学的、専門的な解説は長文のためはぶいております。

13、店舗宿泊地区への出店

保養村では宿舍店舗のバランスが発展の鍵を担います。

観光セクションの元で設けられた規制地域に民間希望者の店舗出店が出来ます。

その参加により重点地区の形成が成り立つのです。

そこには計画された規制が有りますが指導と援助もともないます。

新しい仕事場が生じてきます。現行の宿泊業者もその規約にかなえば新たに作るもリニューアルも同じ指導と援助の対象となります。

その完成までには長い時間が掛かるでしょうがその可能性は準備されるのです。

これらの店舗が増える事で宿泊形態もコンドミニアムと移行し分業が可能となります。

長期滞在型に向かい島内への波及が目に見えてくる事になります。

14、特区と保養地

離島と内地の格差を無くす為に離島振興法が存在しました。

地域の特異を補う為に特区まで設け地方の活性化が促されております。

法があるために阻害される活性化を助けるために活用できる訳です。

保養型リゾート計画もその恩恵を受ける要素もあります。

まして私達が望む事になればそれを妨げる者は誰も存在しないのです。

15、「特別保養地整備法の法案」

現在の特別保養地整備法の主なる法案を下記に示しますが、規制緩和を勧める国の理解度を考えればこの法案以上の、地方の特徴を生かしえる法へと成長するものだと思います。

総合保養地域整備法

【目次】

昭和 62・6・9・法律 71号

改正昭和 62 法律 72号

改正平成 11・7・16・[法律 87号](#)――

改正平成 11・12・22・[法律 160号](#)――

(目的)

第1条 この法律は、良好な自然条件を有する土地を含む相当規模の地域である等の要件を備えた地域について、国民が余暇等を利用して滞在しつつ行うスポーツ、レクリエーション、教養文化活動、休養、集会等の多様な活動に資するための総合的な機能の整備を民間事業者の能力の活用に重点を置きつつ促進する措置を講ずることにより、ゆとりのある国民生活のための利便の増進並びに当該地域及びその周辺の地域の振興を図り、もって国民の福祉の向上並びに国土及び国民経済の均衡ある発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「特定施設」とは、次に掲げる施設（政令で定める公共施設であるものを除く。）であつて前条に規定する活動のために必要なものをいう。

1. スポーツ又はレクリエーション施設
2. 教養文化施設
3. 休養施設
4. 集会施設
5. 宿泊施設
6. 交通施設（車両、船舶、航空機等の移動施設を含む。[第5条](#)第2項第4号において同じ。）
7. 販売施設
8. 熱供給施設、食品供給施設、汚水共同処理施設その他の滞在者の利便の増進に資する施設

2 この法律において「特定民間施設」とは、特定施設であつて民間事業者が設置及び運営をするものをいう。

(資金の確保)

国及び地方公共団体(港務局を含む。次条、[第12条](#)並びに[第13条](#)第1項及び第3項において同じ。)

は、特定民間施設の設定を行う者が同意基本構想に従つて行う当該施設の又

は当該施設の用に供する土地の取得若しくは造成に要する経費に充てるために必要な資金の確保に努めなければならない。

[《改正》平 11 法 087](#)

(公共施設の整備)

第 11 条 国及び地方公共団体は、同意基本構想を達成するために必要な公共施設の整備の促進に努めなければならない。

[《改正》平 11 法 087](#)

(国等の援助)

第 12 条 国及び地方公共団体は、同意基本構想の達成に資するため、同意基本構想に基づき特定民間施設の設置及び運営を行う者に対し必要な助言、指導その他の援助を行うよう努めなければならない。

[《改正》平 11 法 087](#)

(地方公共団体による助成等)

第 13 条 地方公共団体は、同意基本構想に基づき民間事業者の能力を活用しつつ[第 1 条](#)に規定する整備を促進するため必要があると認めるときは、当該民間事業者に対して出資、補助その他の助成をすることができる。

[《改正》平 11 法 087](#)

2 地方公共団体が前項の助成を行おうとする場合において、当該助成が特定民間施設の設置又は当該施設の用に供する土地の取得若しくは造成に係るものであるときは、当該助成に要する経費であつて地方財政法（昭和 23 年法律第 109 号）[第 5 条](#)各号に規定する経費に該当しないもの（次項において「特定経費」という。）は、同条第 1 項第 5 号に規定する経費とみなす。

[《改正》平 11 法 087](#)

(農地法等による処分についての配慮)

第 14 条 国の行政機関の長又は都道府県知事は、重点整備地区内の土地を同意基本構想に定める特定民間施設の用に供するため、農地法（昭和 27 年法律第 229 号）その他の法律の規定による許可その他の処分を求められたときは、当該重点整備地区における当該施設の設置の促進が図られるよう適切

私のおじいさんと観光

母方のお爺さんの名前は原田建造、原田酒造と勝本郵便局長を努めたハイカラな社交家

です。とにかく話し好きの世話好き、私が幼稚園の頃だから六十年位前の話しですが、その頃壱岐は孤立した離れ島と言った方がピッタリの島でした。

この頃の事を思い浮かべる人がいらっしゃるなら、今と比べればどうでしょうか。

あの時のままの状態がむしろ今より魅力有る島と思えるのではないのでしょうか。

そのような島に都会からの訪問者がありました。

その度に伝馬船を雇い、若宮、辰ノ島と案内し釣りを勧めていました。

これこそが本当の今の「やらせ」と違う自然体の体験型観光と思います。

観光は大事だよと言う「ホスト役を務めるおじいちゃん」を思い出します。

今孫の私が観光の壮大さと重要性を生涯の人生とするのは運命とさえ思えます。

それと 35 年前石田に観光論をにない住み着いた時、その当時の横山孝雄石田町長の観光価値観に対する理解は類を見ませんでした。もし今ご健在であればと悔まれます。

筒城浜開発をその時分から実際に手掛けていられました。

今ある筒城浜は氏がその構想で買いとめられたお陰で存在いたします。

信じがたいほど夢が一致しておりました。私はその方々の意志を継いだのかも知れません。

しかしその後には氏の構想を継続する者は現れません。

一本化で氏のなされた偉大な構想が出来上がればと思うところです。

タイムマシン

「タイムマシンは存在する」おかしな事を言わして頂きます。タイムマシンなどある訳がありません。しかし世の中は歴史と流行、統計学を駆使すればタイムマシンと同等の結果を見出す事が出来ると思います。世界ファッションの流行の発祥地はフランス。経済の発祥地はニューヨークと言われております。日本においての先進地は東京であり大阪、福岡とほとんどが流れていきます。発祥地での先取りは並外れた才能と努力が必要です。幸い壱岐はその順で行けば、先進地の流れを参考にすれば大変有利な訳です。

理想の地域造りが今以上に出来るはずですが。そのような意味での「タイムマシン」を利用しない事は大変な勿体無い事で有ります。先進地で失敗例が有るのにもかかわらず、繰り返しその失敗した事に取り組む事は如何でしょうか。今まで先進地の視察に行きながら「タイムマシン」を使われなかったのは大変残念な事であります。「タイムマシン」は免許が無ければ使えないのかも知れません。その資格とは「今の自分がベストでないと知識に貪欲に成る事」や「何事もフロンティア精神を忘れぬ事」「素直に成る事」「行動無き企画は取り組まぬこと」「必ずやり遂げる不可能は無いと戦える事」。これらを踏まえれば免許取得です。「タイムマシン」を使い大いに役立て下さい。そして「タイムマシン」を使いこなせばこれからの壱岐市は先進地を超えた企画で盛り上げる事に成るでしょう。

振り返っての人生

人間の夢は年齢とか時代によって違って来る。

「少年よ大志を抱け」と学べば、やたら燃えまくったことがある。

「人と違う発想をせよ」と、学べばやたら想像性を発揮したことも有ります。

暗示に掛かりやすいタイプなのだろうかと考えたこともあるが、それとは違う共鳴と思う。

「お天道様に真っ直ぐ」な事しか感銘していないと思う。

「赤信号みんなで渡れば恐くない」と言うが百万人渡ろうがそうはしたくない。

「タバコをマナーよく吸え」「本音を言え」とか友人に怒ると「己に厳しく人に優しく」と後日しっぺ返しをされた。

少し意味が違うと思ったが、みんなにはそのように思われているのかも知れない。

ある時青年会の流れのグループが壱岐の将来を語っている時「何をすれば良いか多数決で決めたことは一晩中議論をしたとしてもそれは時代遅れですよ」と言ってみた。

驚いた顔をしていたがその時は反論も無かったが後にひんしゆくをかったみたいだ。

私は先輩から学んだ時はなるほどと感心し今でも名言と信じている。

おそらく名言か「おおちゃく」か、多数決で「おおちゃく」と決まったのかも知れない。皆に足並みをそろえるのが良い人間とされた習慣が根強く残っているのでしょう。

確かに人との和が一番重要で有ります。

しかし壱岐の左右を論じる熱意は失いたくないものです。

この頃あまり言わなくなったら「人間が丸くなった」と良く誉められます。

それは35年の間に私の考えに近づかれた事で、私は何時もと変わらない。

戦う時は戦うのが正義と信じているだけです。三十年前から観光の重要性、一本化で無いと壱岐の地域造りは出来ないと「村八分」も恐れず言い続けてきたのです。

正直私も人間、人は感情の動物であり孤独ほど寂しく不幸な事は有りません。

何度となく悔しきで別の山を探そうそうかと思いました。山はどんな険しくとも自分の足で努力さえすれば登れる。しかし登山許可も降りず、許可をもらうだけで三十年も粉骨するのは情けなさ過ぎる。しかしこのような場合、壱岐に住まれている方で壱岐を去り成功された方もいらっしゃいます。

私の場合は逆で、戻ってきた壱岐を去ると言う事は逃げる人生で、私には耐えがたい。

3年ほど前に対馬に研修に行きました。おもな理由是对馬と韓国との観光調査です。

一本化も速やかに決まりかなり感覚的には進んだ島だとの先入感が有りました。

一人になり厳原の居酒屋にて、壱岐で青年会と議論したような場に遭遇しました。

対馬の特産品についてマスターとの会話を聞き、対馬の青年会らしきグループと一緒に飲みませんかとなった。その冒頭に、一本化を速やかにされた対馬は偉いと、挨拶を交わし意見交換を始めました。話すうちに先入観とは違う場面に出くわしました、

「観光など当てにしてない。俺達は島の中の経済で充分だと」胸を張っての発言です。

思わずビックリして「壱岐より三十年送れている」と言ってしまった。

そうなると対馬の人は反応が早い。尊敬し合っての話が急変してしまった。

かまわず「共産国でも観光を外貨獲得として大切にしている」等など得々と語りました。

その失敗を味わいたくなければ壱岐に研修に来いと、述べるだけ述べ「何でも聞いてくれ。

答えきらなかつたら好きなようにしても文句は言わぬ」と言ったらあれこれ質問が有りましたが、それに絶対と言う言葉を添えてキッパリと答えた。そうこうしているうちに

「おい皆、この人のように熱く語る人が対馬にはいるか」との一言で急変した。

終わりには先生と呼ばれ、朝の八時まで話しに付き合った若者もいた。

対馬は壱岐ほどまだ整備されておらず、これからいろんな工事が始まる。壱岐にタイムマシンの免許を持参して研修にすれば、30年得するのだがと思いながら去った。私はこの時熱意を理解された事でどれほど癒されたか知れない。と同時に壱岐は少なくとも観光感覚では30年、対馬よりは先に行っているような気がした。その意識改革に私は少しでも役に立ったのかも知れないと自分を慰めてみた。壱岐では対馬のようにストレートな所がないから、口には出さずとも当の昔に理解されているのでなかろうかとさえ思えた。しかし壱岐ではきっと私に人格が欠けているから答えてもらえないのかと、自分の性格が一瞬嫌にも成った。今私は何が一番偉く尊敬するかと言えば「健全な子供を多く育てた人」が一番偉いと思っている。もし発言に資格が要るとすれば、私は皆さんに意識改革など言える立場ではない。山頂に登りつく為には優しさの有無とは別に、気迫も必要なのでなかろうか。私が思い続けた地中海クラブのような地域造りは、気迫無しでは成し遂げられぬ。何故なら三十年誰からも取上げられなかった企画である。幸い私には今は同志が出来ました。石田町観光プロジェクトチームの皆様とそれを支えてくれた町長並びに議会議員の皆様です。しかし県の許可をもらう為にはこれからは地域の一層の合意が貴重と成ります。一本化と成り多くの共鳴者の協力があれば壱岐全島が滞在型観光保養村となる事はお約束します。それまでは「ネバーギブアップ」。バカを続けます。貴方もここで大きく叫んでみませんか、「壱岐は俺達で良くすると」

長文のご拝読、大変有り難う御座いました。

書き終えて満足感が湧いてきません。

何から何まで今までの壱岐を非難ばかりしているようで、壱岐人である私としても寂しい気がします。しかし何も語らず反省も無く新しい壱岐市を迎えるのはもっと悲しく悔まれる事でしょう。

私は考えれば何時も夢に向かい、まい進する癖があるようです。

しかし夢を持てるのは幸せだと思っています。この頃良く思います。

福岡と姉妹都市になりハワイとカズン（従兄弟）になろう。

福岡はハワイと姉妹都市だからです。

壱岐のシーズン開きにはその縁で毎年ハワイからの香りを添えてもらおうと。

また「特区」にたよりハワイの物産を添えてもらおう、

それにより壱岐の物産も桧舞台にもあがれると思うからです。

今、流行のきらびやかなイベントで呼ぶのでなく、

本物の島造りで「ハワイのようだ」と言われる島になれば良いと夢みております。

☆ 帰郷前のプロフィール ☆

勝本小学校二年生の時春吉小学校へ転校、春吉中学校、大濠高校を卒業
福岡大学在学中トリスバーを開業、スナックの名付け親、
中洲で初めてサパークラブをオープン、仕事のため二年で中退、
登山、水上スキー、ヨットの自然好き人間、スキューバダイビングは
九州で第一期生、夢の世界一周を出始めのハワイでサーフィンボケにて
挫折以後地中海クラブに憧れ故郷壱岐に夢をかけ、
今はタラソセラピーの村造りで皆様の健康にお役に立とうと奮闘中

☆ 帰郷後の行動 ☆

- 昭和 46 年 地中海クラブ設立の為帰郷
- 昭和 47 年 郡内市外ダイヤルの撤廃願い提出
- 昭和 49 年 オイルショックにより中座
- 昭和 50 年 ブリの短期養殖に着手。水面利用権が取れずに中止
- 昭和 51 年 壱岐牧場設立 壱州牛の開発
- 昭和 52 年 壱岐牧場お食事処開設
壱州牛移動販売による壱州牛元祖
- 昭和 52 年 壱岐観光協会入会
観光協会事務局設置
行政から民間会長の移行推進者
観光産業 100 億公約。目標 300 億を唱え会長立候補制を提案
青年部結成・サマーフェスティバル発案・ゴルフ場推進運動
事業部の設立による行政の受け皿を提案
企業の地域還元を訴え、バス会社の地域活性化の訴え
地元による観光企画作成の提言
特別保養地整備法の指定願い
- 平成 12 年 長崎県しまの活性化協議委員会公募委員
筒城浜海水浴場クラゲ除けネットの設置
- 平成 13 年 石田町活性化会発起メンバー
一本化推進運動
石田町議会合同演説会
特別保養地整備法指定地域の拡張願い請願
石田町観光プロジェクトチーム結成

自然に手を加えるのは怖い。
何もしないが良いと良く言われる。
しかし自然は保護しなければいけないほど壊してしまった所もあります。
まして生活の為には止むおえぬ開発も生じます。
そこには自然とのバランスがとれた保護開発が必要になります。
手を加える場所とそのまま自然を残す場所の選定が大切でしょう。
壱岐の浅い自然は庭に近い感覚で守ってこそ、より良き美しい物になる所もあります。



参考写真

壱岐企画 代表者 田口 靖人

〒811-5202 長崎県壱岐郡石田町筒城仲触 1786

Tel 0920-44-5818 fax 0920-44-5686

ikiboku@bronze.ocn.ne.jp

観光保養村計画

タラソテラピー

製作日 (H15年3月)